

出前講座5「釧路教育研究所研究部による授業」

講座5 7月2日(水) 鶴居村立幌呂中学校

本研究所の研究主題は「社会に生きる資質・能力をはぐくむ授業づくり～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～」に基づく研究部の木ノ内賢治所員による授業公開が行われました。授業は、中学1年生の数学「文字と式」の単元で行われ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、単元計画や学習過程に工夫のある授業が提案されました。

事後研の中で、授業や研究内容に対しての活発な意見交流がなされ、今後の研究の深まりにつながるものとなりました。



出前講座7「複式教育～指導計画から授業実践～」

講座7 5月21日(月) 鶴居村立下幌呂小学校

7名の方に参加していただき、充実した講座となりました。午前中は、釧路教育局義務教育指導班の菅野裕介指導主事を講師に迎え、複式における授業づくりについて講義を行っていただきました。講義の中で、基本的な授業構成だけでなく、「主体的・対話的で深い学び」という視点を持つことを確認しました。また参加した先生同士で複式学級における悩みについて話し合うことも大変有意義でした。最後に中学年の算数の指導案作成の演習をおこないました。

午後は、3・4年生の授業を柴田康吉先生に公開していただきました。3年生が7名、4年生が5名の授業でした。3年生と4年生が90度の黒板配置で学習していたり、間接指導時に子ども達だけで交流を進め、直接指導に戻ってきたときに学習リーダーに報告してもらうなど明日からの授業作りのヒントになるような提示をしていただきました。

事後研では、交流においてホワイトボードを使うかノートを使うかということについての柴田先生の視点やリーダーカード等の下幌呂小学校がこれまで積み上げて実践などについても教えていただきました。参加者からは5月という早い段階で授業を参観することができて良かった、など大変好評でした。



事務局通信

■8月22・23日の両日、釧路市生涯学習センターにて「道東地区教育研究所所員研修会」が開催されました。2日目の分科会では、弟子屈町教育研究所と釧路教育研究所が発表しました。各研究所の情報交換の場として、とても有意義な場となりました。発表いただいた先生方、また当日お忙しい中ご参加いただいた先生方、この場をかりて改めてお礼申し上げます。

■いよいよ学教研標茶大会が来月3日に開催されます。現在、標茶町研様を中心に準備を進めていただいています。現在300名近くの参加予定者となっております。各町村教育研究所の皆様におかれましては、参加体制へのご配慮・ご協力ありがとうございました。学教研標茶大会の成功に向けて、釧研も一丸となって準備を進めて参ります。当日、皆様のご参加をお待ちしております。(事務局)

★釧路教育研究所★ 所報296号

発行日：令和元年9月

発行所：釧路教育研究所

発行者：水上俊司

URL

<http://senken.net/>

E-mail

info@senken.net アクセス用QRコード



令和元年度 道東地区教育研究所所員研修会の報告

8月22日(木)23日(金)、十勝、釧路、根室管内の所員および各町村研究所員が一同に集い、「令和元年度道東地区教育研究所所員研修会」を釧路市生涯学習センター「まなぼと」で行いました。22日は北海道教育大学釧路校教授 大学院教育学研究科高度教職実践専攻 森健一郎氏による講演「カリキュラムマネジメントの実質化に向けて」が行われました。森先生の教員時代の実践を交えながら、8つの観点でお話をいただきました。また夕方から釧路センチュリーキャッスルホテルにて情報交換会が盛大に行われました。

23日(金)は3部会に分かれて研究発表を行いました。所長部会では「研究所の運営について」。A部会では「今日的な教育課題に関する内容」。B部会では「学習指導・学習環境・資質向上等に関する内容」について各研究所から発表がありました。どの部会でも活発的に意見が交わされ、大変有意義な分科会となりました。



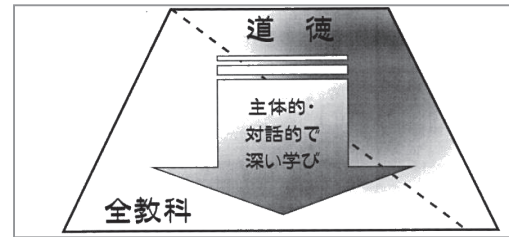
※研究協力校の研究・実践については、次のページに「富原小学校の研究」の概要を掲載しています。

釧路教育研究所 研究協力校
釧路町立富原小学校

今年度、研究協力校の指定を受けています。本校では以下のような研究主題を設定し、今年度は、3年計画で研究を推進している3年目となります。その一部を紹介させていただきます。

研究主題 自己を高めていく子どもの育成
～互いを認め合って学び合う授業づくり～

子どもたちの自己肯定感、自己有用感の低さを課題として捉え、「認め合い」「学び合い」の授業を通して、子どもたちに友達と学び合うことの良さを実感させるとともに、「できた」「わかった」と、学びの達成感をもたせられるようにと研究に取り組んできました。



1年目 道徳を中心に… 2年目 道徳での学び合う姿をどの教科でも学び合う姿に… 3年目

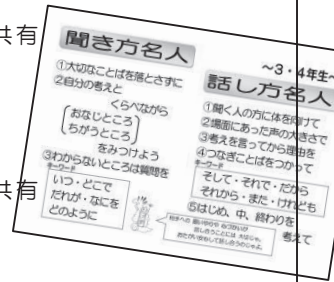
研究仮説 道徳の授業において、「議論する場面」を工夫することで、自己の思いを表現したり、意欲的に話し合おうとしたりする態度を育て、自分の考えを広げ、深めていくことができるだろう。

研究仮説1 見通しをもちながら課題解決へと粘り強く取り組ませ、学んだことを振り返って次へとつなげさせることで、子どもたちがより主体的に学びを深めることができるであろう。
研究仮説2 互いの考えのよさを見つけたり学び合ったりすることで、子どもたちは自信をもって自分の考えを伝え合うことができるようになり、自分の考えをより深め、広げていくことができるであろう。

研究仮説1 学習の見通しをはっきりもたせることで、子どもたちは意欲的に学び進め、互いの考えをつなげ合いながら、学びを深めることができるであろう。
研究仮説2 生徒指導の三つの機能を授業づくりの中に位置づけることで、子どもたちはより一層自信をもって学び進めることができるであろう。



富原小学校における「認め合って学び合う」授業スタイル
①主体的に学ぶ子のイメージの共有
・導入時の「見通し」の大切さ
・自力解決→集団解決
・振り返りの重要性
②対話的に学ぶ子のイメージの共有
・思考のアウトプット
・視覚化、共有化
・共通点、相違点等、視点を明確にした交流や話し合い



今年度は、昨年度までの「認め合って学び合う」授業づくりに加え、「深い学び」を実現するための手立てとして、各教科における「見方・考え方」を生かした授業構成と、子どもたちがより活発に意見を交流するための支持的風土を培うべく、研修を進めているところです。12月5日（木）には公開研究会を予定しておりますので、ぜひたくさんのご意見をいただけたらと思います。

釧路研講座報告

たくさんのご参加、ありがとうございました。

今年度も先生方のニーズに応えられるように、様々な講座を用意いたしました。お忙しい中での講座への参加、ありがとうございました。参加された先生方のこれからの教育実践に、少しでもお役に立てるものになれば幸いです。また、講座の折にはアンケートにもご協力頂きましたこと、重ねてお礼申し上げます。アンケートでの先生方の声をもとに次年度の釧路研講座を用意していきますので、たくさんのご参加をお待ちしております。

出前講座1・3「学校全体で支える特別支援教育」

講座1 7月 30日（火）白糠町立茶路小中学校
講座2 5月 22日（水）弟子屈町立川湯中学校

今年度は弟子屈町、白糠町の各町研のご協力を頂き、出前講座として、北海道教育大学の二宮信一教授を講師としてお迎えし、特別支援教育の講座を開設しました。

弟子屈町では講演の中で、児童生徒の発達状況と、教師を含めた周囲のサポート環境は、刻々と変化し、それに合わせて個別の支援計画も見直す必要があることを改めて認識しました。また、個別の長期・短期目標の設定の仕方やソーシャルスキルトレーニングの実際を学ぶことができました。

白糠町では通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に関わる支援について、そのなかでもLDについて詳しく話をいただきました。言語の習得についてのメカニズムを学ぶことによって、困り感を持っている児童生徒にどのように対応すればよいのかを学びました。また、特別支援に関する専門的な医者がいるわけではないことから、教員が専門的にならなければいけないというお話もいただきました。

参加者の方からは「具体的にどのような指導を行えばいいのかわかった」「時間が短く感じられ、さらに実践した内容」など、日々の指導につながる声が多くありました。



体育講座4「できる！体育基礎講座～マット運動を中心に～」

講座4 7月16日（火）釧路町立昆布森小学校
釧路町立昆布森小学校の造田先生を講師に、体育基礎講座を実施しました。本講座は、授業公開・事後研修・実技研修でした。導入場面では、準備運動でダブルダッチやリズムジャンプを取り入れ、運動量の確保をしながら楽しさも感じられました。本時では、それぞれの技に必要な動きの確認や自分たちで考えて取り組めるヒントグッズが紹介され、子どもたちが中心となって考える活動や課題解決をしていく姿が見られました。その後の事後研修や実技研修では、日ごろから疑問に思っていた指導方法や小学校と中学校との指導方法のつながりなど、たくさんの方の視点からマット運動の指導について深めることができました。

